

「青春一回帰」

母校愛のリレー 記念事業について

母校愛のリレー実行委員長
高43回 小澤 英俊



私達、県陵43(よんさん)会は「つなぐ」をテーマに活動してきました。

振り返れば2020年1月31日に漸く第1回の実行委員会を開催するに至り、月1ペースで集まろうと言っていた矢先に、新型コロナウイルスが感染拡大してきました。本来は集まって楽しみながらの活動となるはずだった1年は、三密を避けるため集まらないで自粛する1年となりました。

先輩の母校愛のリレーを拝見することも出来ず、お盆休みに計画していた学年同窓会も開催できず、不要不急の外出制限のために、会議はオンラインでの開催等、当初立てた計画のように進めることがとても困難な状況でした。

そんな時だからこそ、何を「つなぐ」のか、どうやって「つなぐ」のか、「つなぐ」

ことの大切さを改めて考えることができました。

母校愛のリレーは先輩達が繋いでくださっている大切な事業です。私達も次の代につなぐ為にどんな形でもいいので開催しようと考えてきました。

同期のみんなとの交流も希薄なものとなってしまいました。会うことも出来ず、母校支援の寄付を集めるだけとなってしまいましたが多額の賛同をいただけて本当に有り難かったです。

それでも感染状況が日々変わる状況でしたが、オンライン配信で式典ならびに記念事業を開催しようと実行委員のみんなと学校と協力して本番直前まで実施内容を開催可能な内容に変更して準備を進めていました。

1週間前になっても開催ができるか不安な状況でしたが先生とも話をして、ここまでくれば

変更はないとお互いに式典ならびに記念事業の開催を確信して本番まで残りあと僅かとなりました。

ところが、開催2日前に松本市の感染警戒レベルが4に引き上げられ、急遽延期が決定されてしまいました。

突然の延期で頭の中が真っ白になり、何をしたのかよく覚えていませんが、実行委員のみんなが協力して延期対応に当たってくれました。

現時点では開催時期、内容は確定しておりませんが、何としてもどの様な形であっても愛のリレーの響はつないでいきたいと思います。

延期したことで今回計画したものの以上の記念事業が開催できていることを実行委員一同、願っています。



白虹会 2年 吉野 藍

卒業50年

仲間、友は、つながっています

高22回 菊池 宏一郎



昭和45年1970年に県陵を卒業しました。あれから、50年。気が付いたら70歳になっていました。そんな実感はほとんどありませんが、数えると 間違いなく 70歳です。

令和2年4月12日 「県陵卒業50周年記念大同窓会」を企画しました。

80余名の参加表明があり、盛大に大宴会を!! と考えていましたが、コロナ禍 断腸の思いで延期しました。会場の予約を3回ほど変更しましたが、いまだ開催されてはいません。が、大宴会 はやる。 そんな決意です。

昭和42年入学 3月にラジオから合格者の名前が放送され、合格を確信し、晴れて入学 入学式では、2、3年生からの大声での 激励? を受けました。2年からの講座編成 座布団を小脇に抱え校舎を移動しました。3年時には、県陵祭 窓ガラスの工事があり 夏休み前の開催となりました。

「夏休みあとでもいいのではと皆思っていました。が、古典の某先生の一言 受験勉強があるだろう。」夏休み前の開始が決定された瞬間でした。のんきな我々を現実の競争世界に戻しました。グイ!と。

卒業 進学。大学紛争の余波がまだまだあり、登校はできず休講ばかり。喧騒の都会で 同期の友 と会い、青春を語り、お酒を酌み交わし まさに 自由を謳歌しました。 楽しい 楽しい 思い出です。

卒業半世紀を過ぎても 青春を語った さみしさを慰みあった 友 は、遠く離れても そこにいます。 顔を見て久しぶりと声をかければ県陵の 友 です。

県陵 素敵な 時 を過ごさせてくれた 素敵な 母校 です。



白虹会 3年 加藤 夢魚